



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 役場 国体推進課 内線4203・4204

No.20

2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協力会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます(※紹介順は届け出順です)

興野々民泊協力会(興野々/泉地区)



会長 松岡 寛孝

興野々自治会の相互扶助の精神の再構築を図りたいという熱い思いから、興野々民泊協力会は誕生しました。松岡会長は、これから興野々自治会がどう変化していくのかとても楽しみにしています。

6月に行われたリハーサル大会を振り返り、「一生懸命試合に臨む選手たちの姿を見て、バスケットボールに夢中になっていた学生時代を思い出した」と、感慨深そうな松岡会長。「リハーサル大会以後、地域にも少しずつ盛り上がりが出てきた」と、嬉しそうに話していました。

「まずは、民泊協力会の活動を生活の中心に」と話す松岡会長は、「興野々ならではのお土産は何が良いか」「沿道に植える花は何が良いか」「どんな飾り付けをすれば喜んでくれるか」と、気づけば頭の中は民泊のことだそう。「選手たちは「興野々に来て良かった」そして、私たち自身は「地域の団結力がよみがえってきた」と感じられるよう、お互いにとってプラスになる民泊にしたい」と、優しく微笑みながら意気込んでいました。

芝民泊協力会(芝/近永地区)



会長 宇都宮 好一

野球に尽力してきた宇都宮会長は、「団体競技はチームワークが必要。私たち芝民泊協力会も、選手たちに負けないくらいのチームワークで全力投球する」と、民泊成功に向けて、熱い志を持っています。

2015紀の国わかやま国体の視察研修や、今年6月に行われたリハーサル大会を通し、宇都宮会長は「応援の力を感じた」と話します。そこで、妻の久子さんと考えたのが、ペットボトルと大豆を使った、オリジナルのマラカスを作成し、軽快な音を響かせながら応援すること。「民泊協力会の分はもちろん、応援に駆け付けたチームメイトや保護者の分も作り、全員が一丸となって選手を後押ししたいね」と、目を細めていました。

宇都宮会長は、「芝区の人口は60歳代以上の割合がほとんどを占める。私たちの孫と同世代の選手たちに、「鬼北町の芝のじいちゃん・ばあちゃんの所に来て、本当によかった」と思ってもらえるように、愛情に溢れた心安らぐ空間作りに努めていきたい」と、笑みを浮かべながら意気込んでいました。